

令和5度 結果の分析及び今後の改善策

( 中間・最終 )

中学校区 校番4 学校名 呉市立広中央中学校

重点	d 中期(3年間) 経営目標	e 短期(今年度) 経営目標	l 結果の分析 (結果と課題をこう考えます)	m 今後の改善策(案) (こう改善します(案))
知	確かな学力を育成する。	(1)思考力・判断力・表現力を育成する。	学力調査については、すべての学年、教科において、目標値の全国平均を下回っている。6月実施のため、1学年については受験自体に慣れていないということを考慮したとしても、全学年において学習内容の定着について課題があるといえる。	学習規律マニュアルを徹底するとともに、授業のめあてを明確に示していく。また、各授業の中で、生徒に思考させる時間を意図的に仕組み、学習内容の定着を図っていきたい。
			各項目(人の話を聞く、落ち着いて授業を受ける)に関わる生徒の生活アンケートの肯定的な回答の割合は、全体で93.9%だった。目標値は達成しているものの、思考を伴って授業を受けているかの判断は難しい。	学習規律マニュアルに沿って、学習に向かう姿勢を徹底させる。授業の開始と終了時に挨拶を徹底させるよう全教員で取り組み、学習姿勢に対する生徒の意識向上を図る。
			全国学力・学習状況調査で、「タブレット端末を活用するのは勉強に役立っている。」と回答した割合は94.9%であり、目標の90%を達成している。また全国平均の93.3%と比較しても高い達成値となっている。	課題や目的に応じてタブレットを使用する場面を授業で設定することで、タブレットの学習における効果的な活用を定着させ、更なる活用の向上を図っていききたい。
徳	豊かな心を育成する。	(2)規範意識を育成する。 (3)自尊感情・自己肯定感を育成する。	各項目(挨拶、返事、掃除)の肯定的な回答の割合は、全体で94.2%だった。項目別では、「挨拶」「返事」「掃除」はそれぞれ96.9%、93.4%、92.4%であり、いずれも高い達成値となった。	回答結果は満足するものであるが、各委員会を中心に取り組み、自発的に各項目(挨拶、返事、掃除)が達成できるようにしていく。
			「自分には良いところがある」の項目の肯定的な回答の割合は、全体で85.0%だった。学年別では、それぞれ81.1%、83.6%、90.3%であり、1,2年生が目標値に達成できなかった。	1,2年生の回答が目標値を下回っているのので、目標値を上回るようにしたい。生徒の言動に対して肯定的な評価を行うなど、自己肯定感を高める機会を設けていく。
体	健やかな体を育成する。	(4)基本的な生活習慣を定着させる。	長期期間中の生活リズムチェックシート結果では、(早寝・早起き・朝ごはん)では、自己の目標を達成できた生徒の割合が75%と目標値の60%を上回った。個によって家庭環境が様々であることから、今年度は自己の目標値を達成できたかで評価した。また、生活アンケート結果では、早寝・早起きともに学年が上がるにつれて就寝時間が遅くなる傾向も遅い傾向がみられた。朝ごはんについては、全学年とも9割以上がきちんと食べてきている結果となった。	生活リズムチェックシートを実施するうえで、全生徒には、基本的な生活リズム(早寝・早起き・朝ごはん)について説明し自己の目標値を決定させた。感想からは、「時計をみて行動したい」「意識して早く寝るようにしたい」など自分の生活を振り返ることができた生徒が多かった。今後も規則正しい生活をする意識を持たせるよう取組をすすめていく。
		(5)体力・運動能力を向上させる。	新体力テストの結果では、総合評価がC以上の生徒の割合が75%と、目標達成できなかった。県平均との比較では、8種目中男子で5種目、女子で7種目下回っており、男女共通して特に持久力に課題があると考えられる。	体育の授業では、主運動以外でも、導入の準備運動の段階から、心拍数をあげる動きを適宜取り入れていく。また、運動部活動の指導においても、持久力向上を図る練習を積極的に取り入れていきたい。
*	信頼される学校づくりを行う。	(6)開かれた学校を目指す。	肯定的回答は86.8%と目標値を達成できなかった。学年別では、2学年の肯定的回答が80.1%と最も低い結果となった。また、情報発信をしているかの問いについても全体で86.5%と昨年度よりも6%下回る結果となった。	おおむね満足はする結果ではあるが、各学年とも授業規律を徹底させ、分かる授業を展開し、主体的な学びとなるよう取り組む。また、部活動や体験的な学習を通して生徒の育成を行い、取組内容や状況等を定期的に情報発信していく。
		(7)「自分の命は自分で守る」力の育成	肯定的回答は98.0%と目標値を達成している。学年別でも、最も肯定的な回答が低いのが3学年の97.5%と目標値を達成している。	回答結果は目標値を上回っているため、今後も広島マイタイムラインを積極的に活用しつつ、体育や社会の授業における防災教育との連携を図ることで、生徒の防災意識を高め、不測の事態に冷静に対応できる力を醸成していく。
業務改善	働き方改革を推進する。	(8)生徒と向き合う時間を確保する。	肯定的回答は44%と目標値を達成できていない。具体的には肯定的回答の「あてはまる」は16%、「ややあてはまる」は28%であった。一方で否定的回答の「ややあてはまらない」が44%で一番多く、「あてはまらない」は12%であった。	生徒と向き合う時間の定義を確認(授業、授業準備、教材研究、週案・指導路案作成、部活動、個別指導(学習補充、進路指導、生徒指導等))するとともに、積極的な生徒指導を行うことで、部活動指導等の直接的に生徒と向きあう時間を確保していく。
		(9)長時間勤務を削減する。	時間外勤務が月平均45時間以内の常勤の教職員数は7月で27人中18人であった。年度当初は、新しい業務や生徒との関係づくり等に時間がかかる先生が多くみられた。	試験週間や試験期間、長期休業中は定時に退勤する。生徒指導等の課題が発生した時には学年間や管理職と情報共有を行いながら早期解決させていく。